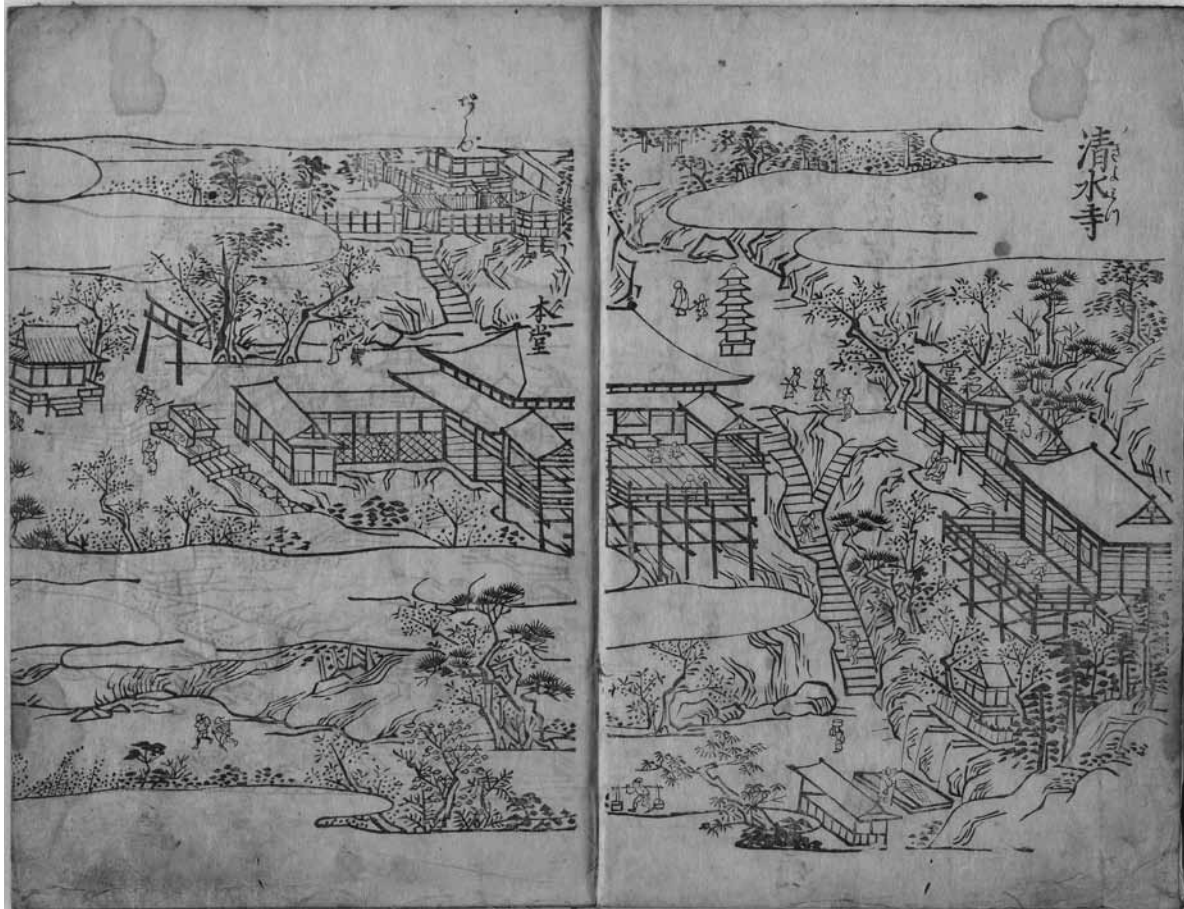


卷四 清水寺



京都府立総合資料館蔵



京都府立総合資料館蔵

清水寺

○け寺を祇園より十町づる東を

本堂八南向かり

○奥千手 滝乃上に南向りまはるまじや

延鎮行齋居士多う草葦まら

停水寺八家慶九年四月の派延鎮

心者大抵同 小島守備也

いかに金を流みそらやーやん

いかに金を流みそらやーやん

いかに金を流みそらやーやん

いかに金を流みそらやーやん

いかに金を流みそらやーやん

いかに金を流みそらやーやん

いかに金を流みそらやーやん

いかに金を流みそらやーやん

いかに金を流みそらやーやん

いかに金を流みそらやーやん

いかに金を流みそらやーやん

京都府立総合資料館蔵

延鎮八家慶法師乃延鎮清水寺に信
坂將軍甲村乃親友也將軍執刀一列
乃通賊高丸をうり一時法にそのう
乃々法カをうりてなまを命をうり
中けゆんやゆゆのよまをうり
鎮詰一也極高丸をうり騎河にがり
いし見見園にうりや將軍乃法師ふ
せうらふもこの奥列あく津津文
へる小官軍跡やうへ矢はるのや
かして一に小比年小冢子はるは賊乃又

見元亭 歌書 二十八

延鎮八家慶法師乃延鎮清水寺に信
坂將軍甲村乃親友也將軍執刀一列
乃通賊高丸をうり一時法にそのう
乃々法カをうりてなまを命をうり
中けゆんやゆゆのよまをうり
鎮詰一也極高丸をうり騎河にがり
いし見見園にうりや將軍乃法師ふ
せうらふもこの奥列あく津津文
へる小官軍跡やうへ矢はるのや
かして一に小比年小冢子はるは賊乃又

京都府立総合資料館蔵

拾遺將軍一ノ樂へふつと高丸を射神
樂崗は斃し後首をとると人々を驚く帝城
にほくまるともさるにや一とて
はげしむるは法やわらうのりもいざれ
後中に勝軍地藏勝敵鬼合門と云ふ二像
は遊里供養一ゆくとて將軍のまの殿ふ
合見けしに天藏刀痕と云ふ二像は後とて
清水寺にほくまるともさるにや一とて
あつく奏しゆまは帝よりはくうやとい
終りてわらう

清水寺鎮守本地文殊菩薩地蔵権現四尊

一石に清水乃物なわらぬは滝乃音ハ
~~~~~むまわらうきりき

○地蔵権現堂 石壇三間をのりく南向

三つら。牛きものうらう  
けふくも京つものうらひんもけふも  
地蔵のうらひんも京つものうらひんも  
一石一はくまるともさるにや一とて

京都府立総合資料館蔵

中つ人興てめふさだつづきとて  
か形この名ももつたこの石はつづきと  
あゆむはつたつづきとてめふさだつづき  
はつたつづきとてめふさだつづき  
とてめふさだつづき

○音龍 山口三つと西へる人音龍は滝  
のこゝ小社を世俗牛黄地蔵といふ傳由  
ゆくけもたはつたつづきとてめふさだ  
つづきとてめふさだつづきとてめふさだ  
はつたつづきとてめふさだつづきとてめふさだ

二つとつづきとてめふさだつづきとてめふさだ  
よめつとつづきとてめふさだつづきとてめふさだ  
音龍集に王生忠峯をみたらはつたつづきとてめふさだ  
かつたつづきとてめふさだつづきとてめふさだ  
つづきとてめふさだつづきとてめふさだ  
の事あるやかつたつづきとてめふさだつづきとてめふさだ  
せり入とてめふさだつづきとてめふさだつづきとてめふさだ  
とてめふさだつづきとてめふさだつづきとてめふさだ  
かのおまはつたつづきとてめふさだつづきとてめふさだ  
滝水はつたつづきとてめふさだつづきとてめふさだ  
かつたつづきとてめふさだつづきとてめふさだ

京都府立総合資料館蔵

○ 春産寺 北向るう、なまの観音や  
 世のゆくゝにふたふたの塔と云、胎  
 乃るこゝろにけしに人々、安んず  
 けりて

京都府立総合資料館蔵

○ 再念坂 長さ半町、その坂の  
 世乃、ゆくゝに之念坂と云、その坂を  
 けりて、ゆくゝに、人々の、けりて、  
 分るゝ、清義の清水寺、人々の、けりて、  
 けりて、清義の清水寺、人々の、けりて、  
 けりて、清義の清水寺、人々の、けりて、  
 けりて、清義の清水寺、人々の、けりて、

京都府立総合資料館蔵

## 清水寺

这座寺院在祇园东南边大约十町（古代日本的长度单位，1町约为109.1米——译者注）的地方。大殿朝向正南。

奥千手，是位于瀑布上方面朝西边的佛堂。就在当年延镇邂逅行叡居士的草庵的旧址上。

清水寺的由来是这样的：宝龟九年四月佛僧延镇（有别的说法是报恩所建，或者贤心所建。贤心是大和小岛寺的僧侣）做了一个很不可思议的梦，（醒来后）他顺着淀川往上游走，看到了一股金色的水流，觉得很神奇，最后发现水流的源头是一处瀑布，在瀑布旁边是一座很小的草庵，里面住着一位穿白衣服的老翁。延镇凑过去打听老翁的年纪和姓名，老翁把自己名叫行叡，已经在这里默默无闻地隐栖了二百年，自己知道千手观音的咒文，一直在这里等待延镇出现等等都一一说来。行叡还说自己要出行去关东方面，让延镇在这里等他一段时间，还告诉延镇可以在这里建一座寺庙。行叡指了指院子前面放的木材，说可以用来雕一尊观音菩萨的木像，然后就向着东方出发了。延镇不知道行叡什么时候会回来，在过了很久之后，就从草庵出来四处打听行叡的下落，但是没有能够再见到行叡。有一天延镇在去山科东边的山峰的路上，找到了那个老翁穿的鞋子，于是更加坚信那个人就是观音菩萨的化身，回到草庵守着行叡临走前留下的木材度日。大约到了延历十七年，镇守府将军坂上田村麻吕猎鹿来到这里，因为疲惫来到草庵歇息，延镇把先前的事情说给了田村麻吕听。将军听了以后深受感动，就和妻子三善高子商量之后把自己的宅邸作为寺院移建到了这里，并把行叡留下的木材雕成了佛像供奉在了寺院里。（这件事在《元亨释书》第二十八卷有所记载）

延镇是报恩法师的徒弟，清水寺的住持，和又被称为“坂将军”的坂上田村麻吕是好友。将军在受命征讨奥州的逆贼高丸时，和延镇谈起讨伐逆贼的事情，恳求延镇说：不借助你的法力我怎么能够成功完成这次使命？延镇当下应允。高丸当时已经攻陷了骏河，驻扎在清见关。他看到将军出兵感到很吃惊。之后双方在奥州交兵，朝廷的军队处于下风，眼看箭矢就要用完的时候，一个个子很小的佛僧和男人出现在战场上，拾捡叛军的箭交给将军，又向高丸射箭，在高丸死在神乐冈之后，又取来他的首级，献给了朝廷。坂上田村麻吕马上把这些不可思议的事情告诉了延镇，问延镇用的是什么法术。延镇说：我们的法术中有被称为胜军地藏和胜敌毗沙门的，我塑了地藏菩萨、毗沙门天王两尊佛像，并把它们供奉了起来。将军径直走到佛殿，发现箭伤刀创全都在塑像身上，塑像的双脚上还沾满了泥土。将军越发吃惊，把这件是报告给了天皇，于是天皇更将敬重延镇了。

清水寺的守护神的真身是文殊菩萨，化身是地主权现。祭祀在每年四月九日。《和歌一字抄》中有这样一首和歌：清水寺的瀑布那让冰面裂开的流水，像凌乱的丝线一样，分而终合。

## 地主权现堂

在沿着石阶向上走三四间（日本古时的长度单位，1间约1.82米——译者注）的地方，面朝南。在大殿的背后。

从这里整个京都可以一览无余，所以总可以听到游人占位置的喧哗声。在地主权现堂的东西两端各有一块石头，名为“盲石”。人们为了好玩，会蒙着眼睛从一块石头试着走向另一块石头，据说很难从一块石头到达另一块石头。“盲石”因而得名。

## 音羽瀑布

从瀑布口有三道水流向西流落。瀑布上有一座小小的神社。民间传说那里供奉的是牛黄姬。在距此更深的山中原本就有一条同名的瀑布，这条瀑布于是取其名，也被称为“音羽瀑布”了。人们在向这里的本尊十一面千手观音菩萨祈愿的时候，一定要在一天之内让瀑布的流水冲打自己的身体三十三次来让身体清净。

《古今和歌集》中壬生忠岑的和歌“汹涌直下的瀑布的上游，一定是因为岁月流逝而苍老了。因为水流中只有仿佛白发的白色水纹，却没有黑色的”，据说是在看到比叡山中的音羽瀑布后所作。另外伊势的和歌“把音羽川的水用堤堰引过来再让水流落，从那瀑布的激流中，可以看到精心布置这一切的人的那颗风雅之心”，被权中纳言藤原敦忠题在了西坂本山庄里瀑布旁的岩石上。此处瀑布的水流，最终也会从清水的那三股瀑布落下去。

## 泰产寺

寺院朝北而建，本尊是观音菩萨。

民间把泰产寺称为子安塔（保佑顺产的塔）。孕妇都会去这座寺院祈祷以求平安顺产。

## 再念坂

长度差不多有半町（古代日本的长度单位，1町约为109.1米——译者注）。民间又称三年坂（日语中再念和三年谐音——译者注），据说在这条坡路上摔倒的人，三年之内就会有不好的事发生。这个名字本来的意思是：去清水寺许愿的人，经过这条坡路时祈求保佑的念头会再次变得很迫切，所以才被称为再念坂。

（張 凌志 訳）

## 【現代語訳】

### 清水寺

○この寺は、祇園から十町ほど南東にあります。本堂は南向きです。

○奥千手 滝の上に西向きに立った堂です。これこそが、延鎮が行叡居士に逢った草庵の跡とのことです。

清水寺は、宝亀九年四月、僧の延鎮（あるいは報恩によると、一説には賢心といい、賢心は大和の国の小島寺の僧です）が霊夢を見て、淀川を上っていくと、金色の流れが見えたのを不思議に思い、その源流を尋ねて滝の源にたどり着いたところ、とても小さい草庵に白衣の老翁が住んでいました。延鎮が立ち寄って年のころと姓名を尋ねたところ、行叡という者で、ひそかにこの地に隠れてすでに二百年であり、千手観音の呪文を知っており、延鎮を待っていたなどと詳しく語りました。行叡は、自分は関東の方に旅立つので、しばらくここにいなさい、さらに寺を建てるとよい、と教え、庭の前の木材を指して、これで観音の像を作れといい、東に向かって旅立ちました。

しかし、約束した帰る日とはいつかと待っていると、しばらく経ちましたので、延鎮は草庵を出て方々尋ねましたが、結局会うことはありませんでした。ある日山科の東の峰に行く道で、例の翁のはきものを見つけたので、さては観音の化身であったと一層信心深く感じて、先の木の方を向いて年月を送っていたところ、延暦十七年とのことでしたか、鎮守府將軍の坂上田村麻呂が鹿狩りでここに来ました。田村麻呂はたいそう疲れて例の草庵で休んだところ、延鎮は上のような事どもを詳しく語りました。將軍は深く感銘を受け、妻の三善高子と相談して、自宅を移して寺とし、像を刻んで安置したとのことです（この話は『元亨釈書』巻二十八に見えます）。

延鎮は報恩法師の弟子であって、清水寺に住んでおり、「坂將軍」とも呼ばれた坂上田村麻呂の親友でした。將軍は勅命を受けて奥州の逆賊高丸を討つ時、延鎮にそのことを語り、法力を借りなくてはどのようにして勅命を立派に果たせるでしょうかと懇願しましたので、延鎮は承諾しました。高丸がすでに駿河を攻め取り、清見関に滞在していたところ、將軍の出兵に驚きそののち奥州で戦をしました。朝廷方の軍勢が勢いを失い、矢が尽きて危ない状況になったとき、小さい僧と小さい男とが現れ、賊軍の矢を拾って將軍に与えました。さらに、高丸を射て高丸が神楽岡に倒れて死んだところを首を取って帰り、朝廷に献上し、すぐに延鎮に不思議なことどもを告げて、どのような法力だったのかと尋ねたところ、「私たちの法に勝軍地藏、勝敵毘沙門というものがあり、私が地藏菩薩・毘沙門天の二像を造り、祈りました」とのことでした。將軍がそのまま仏殿に入ってみると、矢のきずや刀のあとはずべて二像が受けていて、両脚には泥土が付いていました。將軍は一層驚いて、このことを帝に申し上げましたところ、帝はますます延鎮を敬いなさったとのことです。

清水寺の鎮守は、本地は文殊菩薩であり、地主権現といえます。四月九日に祭りをします。和歌一字抄に、「清水の…（清水寺の水を割る滝の水は、乱れた糸がより合わさるように一つになった）」という一首が載せられています。

（岸本恵実）

○地主権現堂。石段を三四間ほどのぼったところに、南向きに立っています。本堂の後ろです。

ここから、京のあたりを残らず見晴らせるので、行楽客が場所取りをする声が聞こえています。この堂の東西の端に石が一つずつ据えられています。その名を「めくら石」といいます。人々がおもしろがって、目をふさいで、どちらからでもあちらの石からこちらの石にたどりつこうとして歩いてゆくけれども、容易にはたどりつけないことだと言い伝えられます。そういうわけで「めくら石」と呼ぶようです。

○音羽の滝。滝口から三筋、西の方へ水が流れ落ちています。滝の上に小さい社があります。世間では牛黄姫を祀ったものと言っています。さてこの滝は、もともと、ここより奥の山間にあったものに基づいて、音羽の滝と呼ぶようになったものです。世の人がここの観音に念願するときには、必ず一日に三十三度この滝水に打たれて身を清めたということです。

古今和歌集中の、壬生忠岑の歌に「激しく流れ落ちる滝の上流は、年月がたって老いてしまったに違いない、流れには、白髪のように白い筋ばかりで、黒い筋が無いから」と詠んでいるのは、比叡山にある音羽の滝を見てのことだということです。又、伊勢の歌に「音羽川を堰き止めて水を引き入れて落とす、滝水の激しい流れに、このような趣向を凝らした人の風流な心が見えもすることだ」と詠んでいるのを、権中納言敦忠が西坂本の山荘の滝の岩に書きつけたということです。この滝水の流れは、清水の三つの滝に落ちるとのことです。

（鳴海伸一）

○泰産寺 北向きに建っています。本尊は観音です。

世間の言い習わしでは、子安の塔と呼ばれています。妊婦は必ずこの寺に祈念して安産だということです。

(藤原英城)

#### 再念坂

坂の長さは半町（約五五メートル）ほどもありましょうか。世間の言い習わしでは、三年坂と呼んで、この坂で躓いて転んだ人は必ず三年以内にわが身に良くないことがあるなどと言っています。本来の意味は、清水寺へ参詣する人がこの坂で再び念願の気持ちが深くなるということで、再念坂（再び念願する坂）と言うのです。

(藤原英城)